

学校評価アンケート結果報告

平成 24 年 2 月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けています。教育の環境整備と質的向上を図りつつ、教育目標の達成を目指した様々な取り組みを重ねてまいりましたが、その成果を確認するとともに、更なる改善に向けた課題形成を行うため、昨年度に引き続き学校評価アンケートを実施いたしました。

集計結果に分析を加え、学校改革・教育改善の進行状況をお伝えすべく、本書面をまとめましたのでご覧ください。今後益々のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

学校長 岡本 博

凡例と集計方法について

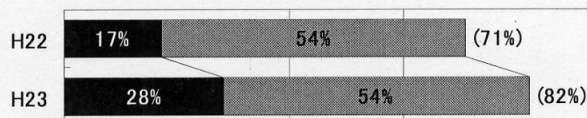
凡例：■ そう思う ■■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。今後も引き続き、保護者の皆様に十分なご判断をいただけるよう情報発信の充実¹に努めてまいります。

ほぼ全項目で改善が進む

昨年度に引き続き、保護者の皆様から 20 の質問にご回答を頂戴しました。得点化できる 15 の質問のうちでは、育友会についてのものを除く全項目で改善が進みました。特に伸長が大きかったのは、「学校行事」と「進路指導」です。また総合的な満足度を量る「大阪高校に入学してよかった」でも大きな伸長が見られます。引き続き、奢ることなく迷わずに、より満足のいただける教育の実現、理想の学校作りに全校をあけて取り組んでまいります。

Q 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。

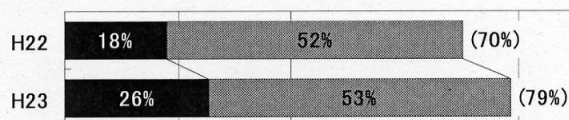


前回と較べて「そう思う」という但し書きなしの積極的肯定が目立って増加しています。学校としても特に改善に注力した部分であり、保護者の皆様から高い評価を得られたことは大きな喜びです。昨年度の学校評価を受けて、『教育意図の明確な事前説明を行い、生徒がより積極的・主体的に行事に関わることができるように働きかける』ことをお約束しましたが、取り組みに一定の評価が得られたようです。

¹ 回答留保は、前回に較べてほぼ全ての項目で減少しました。今後も情報発信を徹底し、余さずご判断をいただけるよう注力します。

生徒にも同様の質問に回答してもらいましたが、肯定的な回答が昨年比で+37%と大きく増加しており手応えが感じられます。特に生徒会活動と連携した行事には、多くの生徒が当事者意識を強く持って臨むことができ、貴重な学びの機会となったようです。

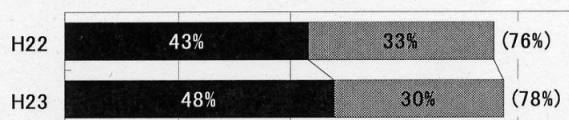
Q 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われませんか。



進路指導については、昨年度の第 1 回アンケートから回を追うごとに改善が進んでいますが、生徒の進路希望の実現が学校に向けられた最大の期待（今回のアンケートでも「今後、学校に更なる充実を求めたいもの」に 72%という最多の回答が集まりました）であることを全教職員が銘記し、更なる改善に努めます。

最も高い評価を得たのは 3 年生です。進路決定の時期を迎え、これまでの指導の意義と成果を改めて評価いただいた結果であろうと考えます。肯定的回答数が次に多いのは 1 年生です。進路意識の高揚を図る取り組みに入学時から注力してきたことが、昨年を 5 ポイントほど上回る評価に結実したと考えられます。一方、本校に限らず中弛みが出やすい 2 年生については、昨年を上回ってはおりますが、変化は小さく、指導の改善を更に加速させる必要を痛感する結果でした。

Q お子様を大阪高校へ入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思われませんか。



学校の教育活動に対する総合的な満足度を直截的に示す指標として本校で最も重視している項目です。保

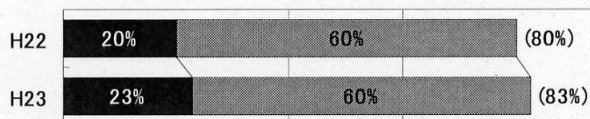
護者の皆様からの評価と同様に、生徒の回答でも肯定的なものが16%増え、特に現3年生については昨年同時期(22年度の2年生)に比べ62%の増加を得ました。学校の教育活動は3年間を見通して設計しているため、その中途段階では、学校というコミュニティから得られるものや過ごした時間の価値が捉え難いようです。先輩たちがどのような過ごし方をして、何を感じながら卒業までの行程を踏んだかを、今まで以上に具体的に示しながら指導に当たる必要があります。

また、これまでの学校評価アンケートを通じて、本校の強みと弱みも改めて明らかになっています。相対的に弱い部分を補完し、強みである部分を伸ばすという両面からの改善・改革を進め、来年度には更に高い評価をいただけるよう、決意を新たに取り組みます。

教育活動について

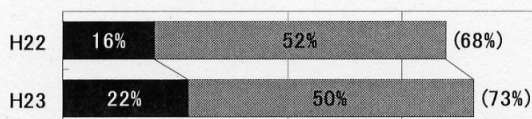
学校行事と進路指導(前述)に加え、「教育課程」「学習指導」「部活動」からなる5項目で教育活動を評価して頂きました。いずれも昨年を上回る結果です。

Q 様々な進路希望に対応できるよう、教育課程(選択科目など)や教材は適切に整備されていると思われませんか。



8割以上の保護者の皆様から肯定的な評価を頂戴しましたが、まだ「どちらかといえば」という但し書きがついたものが大半を占めている状態です。教育課程は生徒の進路希望を踏まえて工夫を凝らしておりますが、大学側で、学部再編や入試制度変更など複雑な変化が繰り返される中で、それぞれの進路希望を実現するのに教育課程をどのように利用すればよいかの説明が不十分であったかも知れません。進路面談などを通じてより丁寧な説明を心掛けます。また、新課程への移行に伴って入試が変わることも予想されますので、講習や個別指導などの補完手段も充実を図り、生徒一人ひとりの進路希望実現への道を整えてまいります。

Q 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。

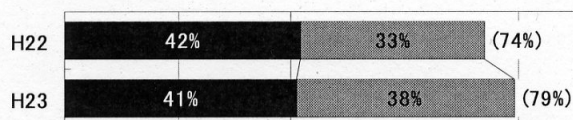


学習指導の充実と生徒の学力向上は、学校の至上命題です。まだ改善の余地が大きく残っています。教職

員を対象とした調査でも「教科学習指導のスキルアップ」が“最も大切にしている教育活動への取り組み”という結果となり、保護者の皆様の期待と教職員の使命感とは一致しています。

本校では生徒による授業評価アンケートを地域内でいち早く導入し、実施毎に専門機関による分析評価を受け、組織的な改善に取り組んできました。改善も着実に進んでおります。教員研修の機会整備を更に推し進めるのと並行して、現在は3月までの期間を“ゼロ学期”と位置づけて、教科組織を挙げた授業の改善を進めているところです。どうぞご期待ください。

Q 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。

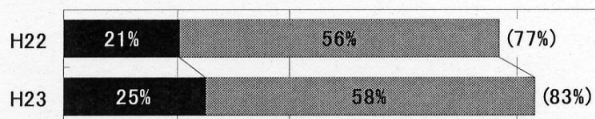


但し書きなしの積極的肯定は割合を下げてしまいましたが、肯定回答が占める割合は5ポイント増加です。それぞれのクラブでは優れた競技実績を挙げるだけでなく、奉仕活動など様々な活動を通じて生徒の成長機会を整えています。学校ホームページでも各クラブの活動を随時紹介しています。ご高覧頂ければ幸いです。

コミュニケーションなど

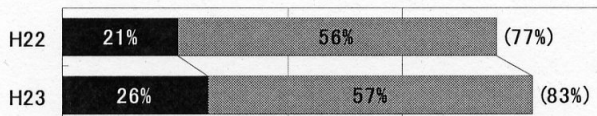
学校からの情報発信、保護者・地域からの声への対応、安全への取り組みについても昨年度と同じ質問で評価を頂きました。ご家庭と力を合わせ、生徒を取り巻く環境の整備をこれからも進めてまいります。

Q 学校からの連絡文書や懇談会・授業公開などを通じて学校の様子は十分に伺えますか。



前回に比べて6ポイントの改善です。別の質問では模擬試験成績や進路・入試に関する情報に充実を求め声が多く集まるなど、全体での発信は強化されながらも、必要な情報を適切な時期に提供していくという点に注力が足りなかったのかもしれませんが。クラス懇談会のテーマ作りや各種通信類の編集に際して、今回のアンケート結果をより強く反映させていくのに加え、ホームページでも学校の様子をタイムリーに且つ詳細にお伝えしていきたいと考えます。

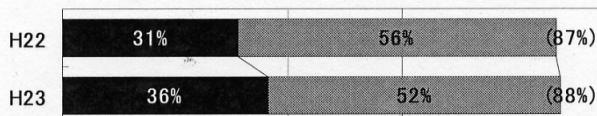
Q 学校は、保護者や地域の要望・意見に対して誠実に対応してくれますか。



この項目でも改善が進みました。引き続き、生徒を取り巻く環境に変化があっても、柔軟かつ迅速に対応し得る体制を整えていきます。

また、様々な要請に対する学校としての対処方針については、合理的な理由を添えてきちんと説明することを心掛けます。担当教員間で対処や説明に差異が生じてはいけません。指導方針の共有・徹底を図ります。

Q 登校・下校時指導や緊急時メール連絡網など、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われませんか。

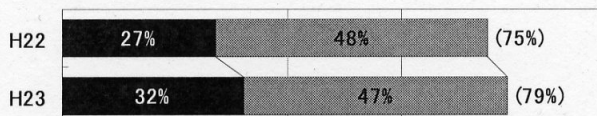


前回に引き続き高い評価を頂戴しました。安全は学校が実現すべき最優先項目です。但し書きなしの積極的肯定の比率を更に高めるべく、問題の所在特定を進めながら安全教育の更なる強化を図ります。

教育目標の達成へ

本校では、『未来へ、そして世界へ開く自己の確立』を教育目標に掲げて日々の教育活動に当たっており、その達成状況を「正しい生活習慣の獲得」「将来と結びつけた行動選択」「共生の資質」「自律的な学び」という4観点に分けて、生徒と保護者の皆様に評価をお願いしました。着実に改善が進むことも確認された一方で、更に加速を急ぐ必要も同時に感じさせる結果です。

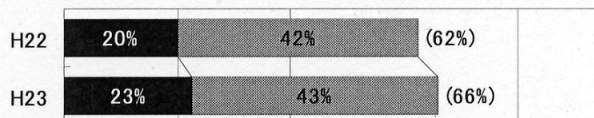
Q 保護者の目から見てお子様は、正しい生活習慣を身につけ、あるいは維持していますか。



規則正しい生活は、学業のみならず全ての土台です。個々の場面での指導の充実・徹底を図ってきました。生徒自身の評価を見ると、2年生3年生ともに1年前に較べると肯定的な回答が着実に増え、一定の成長あるいは教育成果が見て取れますが、期待ほど大きな変化ではありませんでした。規律をもって生活を送る必要により強い認識を持たせ、且つ自身の変化を自覚さ

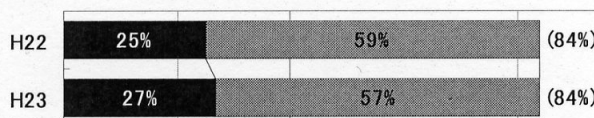
せるような振り返りの場面を作っていきます。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



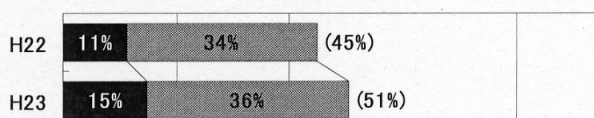
僅かな改善は見られますが、肯定的な回答の割合は期待ほど大きく上がりませんでした。進路指導の更なる充実を求める声の多さとも符合します。時期ごとに何をすべきかを、諸先輩の例を引いて做すべきモデルとして示すのに加えて、ホームルームや進路関連行事を機会として、一人ひとりにしっかりと考えさせるような問いを積極的に投げ掛けることに注力します。做うことを超えて、自分で問いを立てて考えられる力を育むことに、主眼を置いて指導に当たります。

Q 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



肯定回答の割合では、昨年度と同じ結果になりましたが、但し書きなしの肯定的回答が僅かながら増え、また、学年が上がるほど高い評価を得ていることから教育改善には一定の成果が上がっていると思われれます。現3年生を例にとってみると、「そう思う」を選んだ割合が1年前(2年生時)に較べて42%以上増えました。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分で立てた計画に沿って学習を進められるようになりましたか。



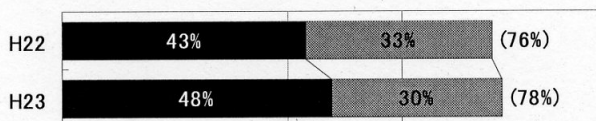
自立的な学習姿勢を養う教育は、昨年比で改善したとは言え、まだ不十分です。現在、学力向上策の一環として「学んだことを使った課題解決の機会を授業内外で十分に与えること」(専門機関の調査研究により学力の形成に大きな効果があることが示されました)を目標に、教科学習指導の改善に取り組んでいます。こうした試みが成果を上げるにつれて学習に対する興味と積極的な姿勢は着実に引き出せるものと考えますが、並行してより即効性のある手立ても必要です。平素の授業のなかでも、また、オリエンテーション合宿などでも、生徒自身による学習計画作りを支えていきます。

ご家庭との連携

本校では、教育が実を結ぶにはご家庭との連携が欠かせないと考えます。高校では珍しいPTA組織である育友会が設置されているのもその理念の現れです。

Q 進路希望や将来の職業、あるいは学校での様子などについて、家庭で話をすることはありますか。

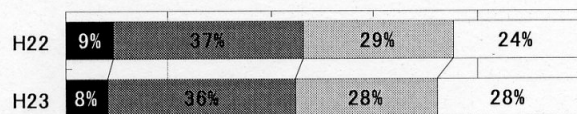
- 話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる
- 話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



僅かながら改善が進んだとは言え、いまだ2割強のご家庭で「話をする機会が少ない」という状況にあります。対話のきっかけになる材料として進路・進学に関する情報を十分に発信することで改善に努めます。

Q 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動に関心を持っていますか。

- たいへんに関心があり、内容も分かっている
- 関心はあるが、内容についてはよくわからないことが多い
- あまり関心はないが、活動の内容はある程度知っている
- あまり関心はないし、活動の内容もよく知らない



「内容を知っている」という回答も、関心があるとの回答も昨年に較べて減少する残念な結果になりました。ご関心を持っていただけるような活動の拡充と、それをお伝えする広報の徹底により、改善を図る所存です。

保護者ニーズの所在、ほか

Q 保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実に望むことは何ですか。

「進路や入試に関する情報」を選んだ回答が45%と最も多く、次は「模擬試験などの成績状況」が41%でした。今後の活動に反映させていきます。また、「教養系の講演」は昨年同時期に較べて16ポイント増の23%、「生活習慣の改善を促す親からの働きかけ」は同10ポイントで22%の方に選ばれています。

一方で、「こどもの接し方や行動観察の方法」については、教職員の予想を大きく下回る結果でした。子どもたちはそれぞれの場面で異なる側面を見せます。正しく導き望ましく成長を辿らせるため、どのように行動を見守るかを保護者の皆様と共有したいと考えます。

Q お子様は意欲や学校に進んで通う姿勢を示していますか、その対象を2つ選んでご回答ください。

「クラスでの友人とのふれあい」が昨年度に引き続き最多(58%)を占めました。生徒の学びは、教師から与えるものと生徒同士の刺激から生まれるものがあります。温かい雰囲気の中で好ましい相互刺激が働くよう、今後もコミュニティ作りに注力します。2位、3位には、昨年と同様に「クラブ活動」「進路目標実現への接近」がそれぞれ33%、27%で続いています。

Q 今後、子どもに獲得させたい資質はどれですか。

昨年度と同様にトップは「将来を切り開いていく力」(56%)と「自主自立の姿勢」(52%)の2つですが、今回の特徴は「責任感」の選択が増えたことにあります。学年が上がるにつれて高い選択率となり、全学年で昨年度よりも選択が増えました。「高校生として身に付けるべき責任感とは何かの定義」に立ち戻って、教育活動の見直しを進めていく必要があります。

Q 今後、学校に更なる充実を求めたいものは何ですか。

前回に引き続き、「進路指導や就職支援」(74%)と「学習指導や学力向上」(68%)の2つが飛び抜けて高い選択率となりました。適性或資質に合致した進路を見出し、その実現に向けた支援を行うことこそが学校が応えるべき期待であるとの認識を新たにしました。両項目とも、各々の評価は前述の通り改善していますが、「それでも現状にはまだ満足できない」「更なる改善が出来るはずだ」という厳しい批判であり同時に期待であると受け止めました。行動を以って応えます。

Q 本校の特徴としてどれが当てはまりますか。

選択が多かったのは昨年同様、「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」(昨年41%→今回49%)、「ひとりひとりを大切にしてくれる学校」(同35%→41%)でしたが、選択率は更に高まりました。学校の良さとして誇れる部分ですが、前項の結果が示唆する「期待」とのずれに、学校として今後注力すべき方向が見えます。学力を高め、進路を約束できる学校作りに邁進する中でも、皆様に認めていただけている良さは失わないよう舵取りには留意します。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 副校長 岩本信久